全国大会の意義と業界の課題

今年度の「産業廃棄物と環境を考える全国大会」は、三重県志摩市で開催されることとなった。これまでは比較的大都市での開催が多かった全国大会だが、今回は地方都市での開催となり、より地域色の豊かな大会となりそうだ。同市には、今年は20年に一度の伊勢神宮式年遷宮で多くの観光客が訪れている。全国大会の前後には、三重県産業廃棄物協会が希望者と共に伊勢神宮を参拝するイベントも企画している。同協会の木村亮一会長に、全国大会開催の意義や業界の課題などについて聞いた。（黒岩修）

三重県産業廃棄物協会　会長

木村　亮一　氏に聞く

式年遷宮のお伊勢さん参拝も

地域色を出したイベントに

新たな大会へ三重で第一歩

地方都市で初開催

――三重県志摩市で全国大会が開かれることとなったが。

「これまでは大都市で行われており、こうした地方都市で開かれるのは初めてではないかと思う。伊勢神宮の式年遷宮でさまざまなイベントが行なわれている年の全国大会が、たまたま中部ブロックでの開催ということになっていたので、非常に良いタイミングではないかということで、三重県志摩市での開催となった。

こうした都市での開催となったので、より地域色を出した大会にしたいと思っている。例えば、大会後の交流会では地元の食材をふんだんに使った料理を出してもらうことにしている。また、志摩市の商工会に協力してもらい、物販も行なうことを予定している。全国から500人程度が集まるので会場選定などは苦労したが、何とか志摩ロイヤルホテルで開催にこぎ着けることができた」

――今年、伊勢神宮には多くの参拝客が訪れているが。

「今回参加する全国の会員の方々の中にも伊勢神宮の参拝を希望する人が多いということなので、大会の前後には三重県産業廃棄物協会で希望者を集めての参拝も企画している。これは普段一般の人はできない御垣内参拝ができる貴重な機会となっている。家族で来られる方も多いと聞いている。こうした地元色を出した大会はこれまでにあまりなかったと思うが、これをきっかけに、大会のあり方が少しずつ時代や地域のニーズに即したものに変わっていけばいいと思っている。その第一歩を三重県で踏み出したい。今回の大会は環境省のほかに三重県や志摩市にも後援していただいており、国、地域行政、業界が一体となった取り組みとなっている」

排出事業者のトップがパネル討論参加

――プログラムの特徴は。

「今回もパネル討論会が行われるが、そこには排出事業者の代表として、井村屋の前山健社長が参加していただけることになっている。これまでも排出事業者がパネル討論会に参加することはあったが、大抵廃棄物や環境部門の担当者で、全国的に知名度のある企業のトップが参加するというのは異例のことではないだろうか。これは前山社長が自ら参加を名乗り出て実現した。そのほか、国、県、処理業界の関係者、そして学識者が参加しての討論会となる」

――優良産廃処理業者認定制度がパネル討論会のテーマとなっているが。

「三重県では不適正処理が多かったこともあり、優良産廃処理業者の育成は重大施策の一つとして取り組んでいる。産廃協会としても県の要請を受けて講習会などを開催している。環境配慮契約法の項目の中にも産廃優良認定が盛り込まれ、注目も高まっている。そういう意味では非常に良いテーマなのではないかと思っている。

ただ、私は個人的な意見としては、優良認定の項目には少し疑問を持っている。財務諸表の開示、電子マニフェストの利用、ＩＳＯ14001またはエコアクションの取得などの条件を満たすとなると、ある程度の規模があるところに限定されてしまう。それができない中小・零細企業は優良業者ではないのかというと、私は違うと思う。また、それだけ苦労して認定を受けても許可更新が5年から7年になる程度だ。ようやく環境配慮契約法に盛り込まれたが、まだまだメリットが少ない。こうした面を考えれば、今後は制度自体の見直しも必要になってくるのではないかと考えている。何を持って優良業者かということを、もっと明確にしていくべきだ。

電子マニフェストの普及については、まずは排出事業者から導入を進めれば、急速に進むだろう。小規模の処理業者は設備を整えるのも容易ではないし、設備を整えたとしても排出事業者側の体制が整っていなければ活用することはできない。これではなかなか紙マニフェストはなくならないだろう」

――三重県産廃協の特徴は。

「年に2回各会員企業の周辺の美化活動を実施している。そうした1年間の活動を冊子にまとめたり、長年取り組んできた活動に対して総会で表彰も行なっている。また、さまざまな関係団体と災害協定、応援協定などの締結も推進しており、そうした協定が県の入札の際に優遇されるという形になっている。三重県は入札の際に環境に配慮していることなどを重視しているので、こうした協会活動に参加していることは、県内事業でも有利になる仕組みとなっている。今後も会員にさまざまなメリットを提供できる協会として、取り組みを進化させていきたいと思っている」

第12回産業廃棄物と環境を考える全国大会の概要

【開催趣旨】

これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会は、私たちの生活に多大な富と恩恵をもたらした。しかし、地球の限りある資源を浪費した結果、有害廃棄物や資源の枯渇化、地球温暖化などの地球規模の環境問題を発生させてしまった。

今世紀に入り、ますます深刻化する環境問題に歯止めをかけようと、循環型社会や低炭素社会を目指した取り組みが、政治・経済などのさまざまな分野でグローバルに展開されるようになった。

一方、国際的なフィールドだけでなく、地域社会が連携・協働して作り上げる資源循環システムの重要性も指摘されている。

そこで三重県にて開催する今回の全国大会では、低炭素化社会の実現に向けた取り組みのあり方や、循環型社会の形成に重要な役割を担う産業廃棄物処理業者の優良認定制度の普及方策について、行政担当者、事業者、学識経験者など各界の関係者と一緒に考える機会となっている。

【開催概要】

《日時》

2013年11月8日（金）

全国大会＝13時～16時45分

交流会＝18時～20時

《開催場所》

伊勢志摩ロイヤルホテル・ロイヤルホール（三重県志摩市磯部町的矢字笠取939ノ6）

《主催》

全国産業廃棄物連合会▽日本産業廃棄物処理振興センター▽産業廃棄物処理事業振興財団

《後援》

環境省▽三重県▽志摩市

《協賛》

日本経済団体連合会▽日本商工会議所▽全国中小企業団体中央会▽三重県中小企業団体中央会▽志摩市商工会▽三重県建設業協会志摩支部▽志摩建設事業協同組合▽全国都市清掃会議▽廃棄物・3R研究財団▽日本廃棄物コンサルタント協会▽日本環境衛生施設工業会▽日本環境整備教育センター▽日本環境衛生センター▽日本産業機械工業会▽プラスチック循環利用協会▽日本鉄リサイクル工業会▽日本容器包装リサイクル協会▽自動車リサイクル促進センター▽建設副産物リサイクル広報推進会議▽廃棄物資源循環学会▽3R活動推進フォーラム▽環境新聞社▽環境産業新聞社▽日報ビジネス

《協力団体》

三重県産業廃棄物協会▽岐阜県産業環境保全協会▽静岡県産業廃棄物協会▽愛知県産業廃棄物協会

プ ロ グ ラ ム

13：00～13：20	開会
13：20～13：50	環境大臣表彰式典
13：50～14：50	基調講演「低炭素・省エネ社会に向けた産業廃棄物処理」 講師：柏木孝夫氏 （東京工業大学総合研究院ソリューション研究機構特命教授）
15：00～16：45	パネル討論会 テーマ「優良産廃処理業者認定制度普及のために」 コーディネーター：長沢伸也氏 （早稲田大学大学院商学研究科教授） パネリスト：塚本直也氏 （環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長） 和田一人氏 （三重県環境生活部廃棄物対策局廃棄物・リサイクル課長） 前山健氏 （井村屋代表取締役社長） 井上吉一氏 （三重県産業廃棄物協会副会長）
16：45	閉会

第11回 産
(公社)全国産業廃棄物連合会 (公財)日本

大会では功労者への表彰も行われる
（写真はいずれも前回大会のもの）

第11回 産業廃棄物
(公社)全国産業廃棄物連合会 (公財)日本産業廃棄物処理振興セ
進め方
(ステージ1)
(ステージ2)

活発な議論が行われるパネル討論

あらゆる産業廃棄物をパーフェクト処理!!

美しい島々の広がる瀬戸内海の姫路港に面した新日本開発の廃棄物中間処理システムは、廃棄物の海上輸送と陸上輸送をスムーズに行える絶好の位置にあります。

新日本開発は廃棄物の中間処理施設としてロータリーキルン&ストーカー炉・多段炉、破砕施設をはじめ各種処理システム・リサイクルシステムを有しておりますが、この度、廃棄物発電システムを備えたロータリーキルン&ストーカー炉を増設いたしました。(トータル焼却能力309.6t/D)

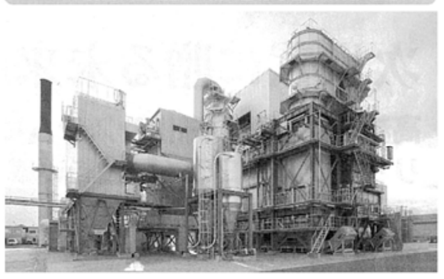
これにより、より多くの廃棄物を適正に処理できる廃棄物処理プラントとなります。

多様化する時代の、あらゆる分野からのニーズに的確にお答えすべく、システムの整備は勿論、スタッフ一同日夜研究開発に研鑽いたしております。

また、(株)タクマとの合弁会社であります(株)RBN(家電リサイクル工場)は、家電Bグループに所属し、兵庫県をはじめ西日本の四国・中国圏をカバーし平成13年4月の法施行時より順調に稼働しております。

私達が豊かな暮らしを享受する反面ますます増加する産業廃棄物を、地球環境にやさしい新日本開発の技術によってクリーンに処理してまいります。

2008年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰



(株)アール・ビー・エヌ

■業務内容(中間処理)

本社工場
焼却………(減量化)➡能力 309.6t/D
油水分離…(燃料化リサイクル)➡能力21.6m³/D
混合………(燃料化リサイクル)➡能力 480m³/D
破砕………(廃木材のリサイクル)➡能力 24t/D
(廃プラスチックのリサイクル)➡能力 6t/D

赤穂工場
混合………(燃料化 原料化)リサイクル➡能力 300t/D

■許可品目(取り扱い品目)
●産業廃棄物
・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類
・紙くず・木くず・繊維くず・動植物性の固形状不要物
・動物の死体・廃肉骨粉・ゴミくず・金属くず
・ガラスくず及び陶磁器くず
●特別管理産業廃棄物
・感染性産業廃棄物・廃油・廃酸・廃アルカリ
●一般廃棄物(中間処理、焼却)
・ゴミ・粗大ごみ・廃油等の可燃一般廃棄物

優良産廃処理業者認定
ISO14001 認証取得(新日本開発㈱・㈱RBN)

新日本開発株式会社
http://www.eco-snk.jp

本社・工場／〒672-8035　兵庫県姫路市飾磨区中島3059番地2
TEL(079)234-5005(代)　FAX(079)235-9111
赤穂工場／〒678-0201　兵庫県赤穂市塩屋字大土手浜1060番
住友大阪セメント(株)赤穂工場内
TEL(0792)34-5005(代)　FAX(0792)35-9111

美しい国、三重の県土を守るために！

一般社団法人三重県産業廃棄物協会は、産業廃棄物の適正な処理及び再生利用・再資源化について調査研究、研修、指導及び普及等を行うことにより、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図り、県民の福祉向上に寄与することを目的としています。

会長　木村 亮一
副会長　井上 吉一
副会長　宮﨑 正次
専務理事　筒井 照雄

理事　出馬 泰道
理事　江本 松男
理事　木村 誠男
理事　生川 好彦
理事　光友 勝美
理事　山本 正人
理事　森田 亮一
理事　堀川 勉良
理事　中村 雪夫
理事　小林 健次
理事　光友 裕昭
監事　児島 隆夫
監事　山中 紀幸

協会の委員会部会活動
◆ 総務委員会
◆ 適正処理委員会
◆ 広報調査委員会
◆ 福利厚生委員会
◆ 排出事業者部会
◆ 災害廃棄物処理専門部会
◆ 医療廃棄物専門部会
◆ 優良産廃処理業者推進専門部会
● 青年部

一般社団法人　三重県産業廃棄物協会
〒510-0074
三重県四日市市鵜の森１丁目２番19号（マルキビル５階）
電話番号　059-351-8488　FAX番号　059-353-7470
e-mail：s.kmie@beach.ocn.ne.jp　http://www.mie-sanpai.or.jp/